

APEX CLUB

アペックス産業株式会社 第30号

『APEX CLUB』

発行 2010年11月1日(通算30号)
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
ホームページ <http://www.apex-sangyo.jp>
発行人 元木 貢 (編集委員)山口力広、高塚章夫
佐々木 健
(事務局)齊藤久美

ご用命・お問い合わせ先
アペックス産業株式会社
電話 03-3455-6474
FAX 03-3455-6558

＜詳しいご案内は当社のホームページをご覧ください＞
URL <http://www.apex-sangyo.jp>

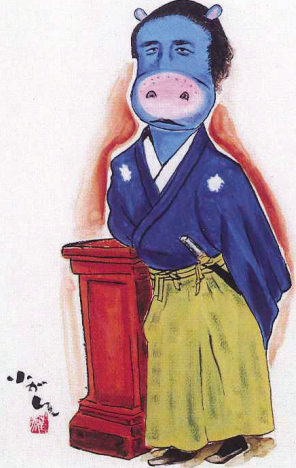
●切り取って保存してご利用ください。
キリトリ線

ギャラリー

作者/芦屋 小雁



芦屋小雁さん(右2人目)



※他に「遊び絵シリーズ」など多くの作品を、提供いただきました。

＜経歴＞

幼い頃、絵を書くことが大好きで商業美術の道を志すが、当時 花形であった漫才に惹かれ、兄・芦屋雁之助と共に、昭和25年頃より京都・大阪を中心に寄席劇場に出演する。その後、テレビ放送が始まると同時に拠点を大阪に移し、週10本のレギュラー(「番頭はんと丁種どん」他)に出演する人気タレントとなる。

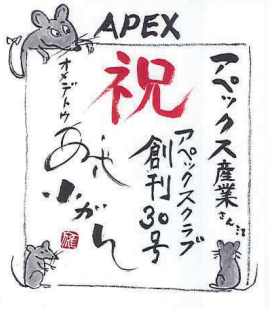
昭和34年、芦屋雁之助を含む当時の仲間と共に劇団「笑いの王国」を結成。昭和39年には、芦屋雁之助を座長に、弟・芦屋雁平を加えて劇団「喜劇座」を結成し、数多くの作品を残す。

現在は舞台公演・テレビ・ラジオにも数多く出演。書籍の執筆や、人物画・遊び絵などにも熱中する。

※本名：西部 秀郎 ※生年月日：昭和8年12月4日 ※出身地：京都府

＜作者寸言＞

ご縁がありまして、アペックスクラブ創刊30号という記念の回にボクのつたない絵を載せていただくことになりました。伺いますと、アペックス産業株式会社さまも昨年創立60周年をお迎えになったとか、ボクのご縁縮ですが、ボクも今年、芸能生活60周年を迎えました。ボクの60年前は、17歳になる年で、兄(故雁之助)と二人で漫才コンビを組んで芸能界に飛び込みました。日本も戦争の色がまだまだ濃く残り、今から思うと大変な時代でした。そんな頃に起業なさったご苦労は大変なものがお有りだったと思います。ボクも100周年目指して頑張りませー！一緒に100周年を迎えましょうね。おめでとうございました。 芦屋 小雁



むし籠

ウスヒラタゴキブリ登場!

先日、ビルの中にある飲食店で夜間にゴキブリ点検を行っていた時のことです。シンクの下を覗こうとした時、何やら虫が頭上をヒラヒラッと飛んでいき

ました。それを同僚が粘着トラップで捕まえて見ると、カゲロウか何かかと思いきや、何と見たこともない『ゴキブリ』でした。全体が透き通っていて、なんだかゴキブリじゃないみたい。詳しく図鑑で調べた結果、森林など野外に生息する「ウスヒラタゴキブリ」ではないかという結論になりました。

その店は、有機野菜を農家から直接仕入れておられるので、以前、店長さんが「野菜のダンボール箱にゴキブリが入っていたことがある」と言っていたのを思い出しました。

まさか、こんな都会で森のゴキブリに出くわすとはビックリ。でも、珍種のゴキブリにお目にかかれて、ちよつぱり嬉しい体験でもありません。



おじやま虫 Q&A

ヒトスジシマカ

Q ヒトスジシマカはどんな蚊ですか?

A 一般にヤブカとも呼ばれるヤブカ属の吸血性の蚊の一種で、成虫は黒い地に、背の白い縦線や足の白斑紋が特徴で、体長は四・五ミリです。漢字で書くと「筋縞蚊」となります。日本では秋田・岩手が北限とされていますが、温暖化とともに北上中です。

Q 発生源はどこですか?

A 身近な竹の切株・樹洞や器物にたまった水から発生し、墓地の石の窪みは最も好みの場所です。また古タイヤ、植木鉢の受け皿等に残ったわずかな水で産卵、成長します。

Q 蚊は猛暑に強いのですか?

A 猛暑には強いのですが、今夏の猛暑は雨が少なく発生源となる水溜りが減ったため発生数が減少したようです。なんと蚊用殺虫剤市場が前年比六割落ち込んだという情報もあります。

Q 伝染病との関連は?

A ヒトスジシマカはデング熱ウイルスやウエストナイルウイルス等を媒介します。また犬フイラリアも媒介するため愛犬にも注意が必要です。

Q ヒトスジシマカは飛翔範囲が狭いため、見かけた近くに発生源があります。発生源となる器物を放置しないことが必要です。また窓に防虫網(網戸)を張り蚊の侵入を防ぎましょう。雨水には昆虫成長制御剤を規定量投入すると一カ月以上有効です。

ネズミを釣り上げる!



スズキは日本に広く分布して生息している魚ですが、生息数が一番多いエリアは東京湾です。スズキを釣るには、まず、いる場所を特定して、エリアを絞り込み、餌の種類を調査して、その餌に近いルアーを選びます。スズキは音に敏感でルアーの着水音やボートのエンジン音などを良く聞いており、ルアーをニセモノ(疑似餌)と見抜く能力も高い魚です。特に大型になればなるほどその傾向が強くなり、釣り上げるのが難しいのです。

一方、ネズミの駆除も同様です。侵入口や営巣エリアを特定し、何を食べているのかを知る。そこから駆除作業が始まります。やはり大型になればなるほど警戒心が強くなり、人間の足音や光の明暗などに敏感で、捕獲が非常に難しくなります。

このようにスズキ釣りやネズミ駆除には多くの共通点があり、言ってみればネズミ駆除は、大型のスズキを釣り上げる要領で、海ならぬ陸地で大型のネズミを釣り上げるための格闘技ではないかと思えるのです。

虫めがね

松本先生を偲んで

前号で「男三人展」をご紹介したのに大変残念です。去る六月の画廊協会展の「穂高」が遺作となってしまいました。

松本先生は大きな体で小さなコナダニに取り組み、日本衛生動物学会の学会賞を受賞されました。先生は学業のほかにも活発に活動されておりました。早くから東京女子医大テニス部の顧問をされ、先生の教えを受けた女医さんは全国に散らばり、旅行に行くと、各地で歓迎されており、おいしい料理を楽しまれておりました。

ダニ学会の前日はきまってるデニス大会でした。油絵は、六十歳から職員美術クラブに入られ、桜井浜江先生に師事されました。おとぎの世界のような暖かい作風で、昨年、宇津木和夫先生を交えた三人展は好評で、今年の画廊協会展に早々一年前に推薦を受けるほどでした。

先生のお料理も抜群、カレーライス、魚介サラダは絶品、お花見会と称してご自宅に例年ご招待をいただきました。三月十日の空襲の悲惨な思い出を胸に、明るく楽しく人生を堪能された先生に心から敬意を表し、謹んで哀悼の意を表します。